

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200529		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニット ひまわり さくらユニット		
所在地	宮崎県都城市蓑原町1839-9		
自己評価作成日	令和2年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年であれば年度初めの家族会で年間行事を計画し、ご利用者とご家族がゆっくり触れ合う時間を提供しているのですが、本年度は新型コロナウイルスの影響により、面会や活動、行事等自粛せざるを得ない状況にある。昨年度は当法人が設立40周年ということもあり、法人内3グループホーム合同で、ホテルにて盛大な敬老会を開催した。ご利用者、ご家族と心に残るイベントになったと思います。面会や外出機会の自粛によりご利用者のストレスがたまらないよう、アクティビティに力を入れ、計算、音読、塗り絵、カラオケ、音楽鑑賞、家事、園芸等に取り組んでいる。特に園芸活動はご利用者が意欲的に取り組まれている。職員と一緒にすれば出来ることを中心とした生活リハビリ(洗濯物干し畳み、茶碗洗い拭き、雑巾掛け等、職員はご利用者が一緒にしてもらうことで感謝を伝え、本人の自信に繋げるよう努めている。自粛が明けたら、例年同様、様々な行事に多くのご家族に参加していただき、ご家族間でも顔見知りとなり、交流の場として全員で支えるグループホームでありたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の影響で外出や面会への規制が多い中、入居者や家族の気持ちをくみ取り、一人ひとりの希望に対してできるだけ支援を行おうと取り組んでいる。職員が気持ちよく業務に取り組めることが入居者への良いケアに繋がるという管理者の思いが伝わり、職員それぞれが意見を出しやすい体制を作り上げている。入居者と職員と一緒に食事を摂り、ゆっくりとした時間を共有し寄り添うことで、入居者が安心してのんびりと過ごせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHひまわり事業所理念をしっかりと掲げ、その理念を共有し達成に努めている。	事業所理念を中央ホールとそれぞれのユニットのキッチンに掲げ、職員への意識づけを行っている。また、定期的な会議の中で理念について検討の機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和1年度は地区祭りに参加し、ご利用者が書いた絵や手作りの小物等を出店する。秋祭りにおいては他者の作品を鑑賞したり食事をしたり楽しめる。	入居者で結成されたひまわり劇団がある。現在は活動を休止しているが、再始動へ向けた取り組みと、地域住民との関りを含めた今後の活動について公民館長や民生委員と話し合いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に認知症のDr.に参加していただき公民館長などの参加者に認知症の理解を助言いただいている。しかしながら地域の人々に向けては十分とは言えない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事、活動報告時、ご利用者を交え写真を交え写真を見たり、ご利用者の意見を聞いている。困難事例をテーマにあげ、そこで得た意見を支援に活かせるよう努めている。	事業所の家族会代表や入居者、公民館長や民生委員などの積極的な参加があった。現在はコロナの影響で開催が困難な状況であるが、資料を配布しアンケートを回収するなど、情報の提供や意見の収集を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議参加メンバーの一員として、日頃ありのままの様子を見て頂き、助言や相談が気軽にできるよう努めている。	事業所のひまわり劇団が市役所での公演を行った。運営推進会議の議事録提出などで訪問し状況を伝えたり、消毒液やマスクの提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、内容を会議などで伝達して理解するようにしている。また毎月のケア会議などでの話をして、適切なケアを提供するようにしている。	毎月の事業所会議において事例を通しながら身体拘束に関する検討会や勉強会を行っている。外部の研修についてもコロナの状況を見ながら参加している。外へ出られる入居者には止めることをせず、職員と一緒に付き添って出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修等に積極的に参加し、研修報告(事例を参考)に勉強会を行い、全職員の質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用しているご利用者はいないが、ご家族も高齢になった方もあり、状況を見ながら都度説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は双方で書類を確認しながら、家族が理解しやすい言葉で実施している。また退所時や重要事項変更時なども都度、同意書を作って理解してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で毎回ご利用者自身の言葉で困っていること、予防、不安に思っていることなどを素直に言えるようにしている。	コロナによる面会規制について、家族より意見が寄せられている。現在は電話などで細かく入居者の状況を伝えている。家族の面会希望にはテラスを利用し、少人数での面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や日々のミーティング、また年2回の人事考課では職員と面談を行い、意見について吸い上げ、検討するようにしている。	法人では人事考課の面接を年2回実施している。管理者は日ごろから職員の表情等を気にかけ、変化があればその都度面接を行い話を聞いている。希望によってはユニットの異動等も行える環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与体制の変更や資格手当などの増額等行っていることで資格取得への意欲が高くなっている。また資格取得への勉強実施など積極的に進めている。業務内容などは都度問題に対して検討し、職員が納得して働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を通じ、研修報告書を作成。回覧で周知したり、勉強会を設けたりしながら、実践に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホーム同士での意見交換や県グループホーム協議会の研修参加を行い意見交換を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い、目線を合わせ、話すときの表情を確認しながら笑顔で接し、安心感を持っていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いやこれまでの関係性に配慮し、これまでの生活の様子を聞き取り、要望等をケアプラン作成に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所までの状況や自宅での様子などを聞き取り入所後のケアに活かしている。また家族が施設でどのように生活して欲しいかを聞き取り、ケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝は挨拶から始まり、日中は洗濯物を一緒に干したり畳んだりと生活の一環を共に過ごし、コミュニケーションを図りながら関係性を築いている。寄り添うことを中心に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事などを通じ、本人の暮らしぶり等を随時報告している。また施設内の写真掲示を見ながら説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者が高齢となり、なかなか以前のような外出が困難になってきている。外出は難しくても、以前の友人などが機会があったら面会に来られるように家族にお願いをしている。(現在は新型コロナウイルスの影響によりお願いを自粛)	電話や面会により、入居者と知人との関りが保たれている。テラスや玄関を利用して出来る限り対話ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個々の性格やADL状況を把握しながら、席を考えたり、一緒に活動参加などをできるよう支援している。特にご利用者間のトラブルはないように配慮している。現在のところトラブルは発生していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービス利用契約が終了しても、主治医、専門医、ご家族を含め経緯を追いながら、必要時は相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望に耳を傾け、職員同士で情報を共有し、話し合い、満足してもらえるよう努めている	入居者の何気ない会話から思いをくみ取り、職員と1対1で買い物へ出かけたり、おやつ作りなど行っている。晩酌をされる入居者へはノンアルコールビールを提供するなど本人の意向を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に聞き取りや毎日の会話の中で情報を集めて、本人がどのように生活されていたのかの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々1人1人顔色、体の傾き、声、表情等の身体状況を確認し連携を図っている。また家事、園芸学習療法を通じて、一つでも残存機能を活かし、日中の対話からヒントを見つけ活動を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング作成時に各担当ごとに状況の変化や問題点を提示し、介護計画作成に生かしている。	ケアプランは計画作成担当者が作成しているが、カンファレンスや評価、モニタリングについては事業所会議の中で職員からも意見を出し合い、検討を行っている。	記録関係については新システムが導入されている中で、入居者の言葉や表情、変化を残せる工夫を行い、さらにケアプランに繋がられるような今後の取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などの個々の状態はアイパットや伝達簿に記載し、朝礼、ミーティング等で情報共有を行っている。またその情報を生かしてケアの変更や計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ、受診付き添い、通院送迎等のサービスを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を活用し、外出、外食、地域住民とのふれあい(地区祭り、作品展)に参加する等、普段の暮らしや雰囲気を楽しむよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(内科、認知症専門医、歯科)との連携により、定期的受診や体調変化時の受診など健康管理に努めている。	入居時に法人内の病院を紹介することで主治医を変更される入居者が多い。連携が取れることで安心して生活されている。身体的な変化が見られる場合には、主治医から家族へ状況の説明を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前午後2回のバイタル測定のほかに、異常時の測定など体調の変化を見逃さないようにして、医療機関への受診につないでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医または専門医、家族を含めドクターからの説明を受けている。入院中の経緯を追いながら状況を踏まえ、本人、ご家族の希望に添えるよう情報共有を行い、その後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化に伴う意思確認では、入所時、介護申請時、家族会行事等に事業所で対応できるケアなどについてその都度説明を行っている。	ホームでは看取りを行っていないが、法人内に様々な事業所があり、身体状況に合わせて転居できる環境がある。オンコールドクターと連携しており、緊急時の指示などを受けることができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修や訓練を行っていてもなかなか実際にその場に居合わせないと対応が難しい状況がある。模擬訓練の必要性を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。緊急連絡先は各ユニットに置いてある。発生時にいかに職員が冷静に対応できるか、都度訓練する必要性を感じる。	日中、夜間の想定で年2回の避難訓練を実施している。近隣には他の事業所も隣接しており、合同での訓練も実施している。その他、職員が毎月、各自で自主訓練も行っている。今後は消防車の出入りについてなど詳細についても検討していく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格や気持ち等、人格を理解して優しい声掛けと寄り添う気持ちを持って接するよう心掛けている。本人が理解しやすいように説明し、本人の気持ちを大事にしている。	食事中的エプロンを職員が手作りで準備したり、夜間使用するポータブルトイレを日中は倉庫にしまうなど、プライバシーを確保した対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の好みや希望を聞き取り話題が広がるように努め、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に沿った動きの中で、ご利用者一人一人のニーズに沿ってその人らしい生活を送ってもらえるようにしている。ご利用者ができることやできそうなことに関しては職員と一緒に進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時の化粧や季節にあった衣服選びなどに気配りしている。また衣服調整時は本人を尊重するように声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら、職員もご利用者と一緒に昼食を摂るようにしている。また茶碗拭き等自分の役割を持ち、職員からの感謝の気持ちを伝えることで、ご利用者が自信が持てるよう支援している	食事は法人のセントラルキッチンから運ばれるが、畑で入居者と育てた野菜で一品調理して提供するなど、食事を楽しめる工夫がされている。希望メニューはアンケートを実施することで取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量や体重推移を把握しながらケアの変更や食事形態の変更など行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援実施、自分で磨ける方はしてもらい、難しい方は支援している。また歯科とも連携して必要時は受診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アイパットでの排泄記録から排泄時間などの把握を行い、一人ひとりの排泄パターンを理解するようにしている。また、様子観察を徹底して、動きからの排泄誘導などを行い、失禁予防に努めている。	夜間ポータブルトイレ使用の入居者も日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。リハビリパンツ使用から布パンツに変更することができた入居者もいるなど排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数の間隔、また量や状態等の確認を実施柔軟な対応を職員間で把握して早期対応を行っている。(おやつに芋や冷たい牛乳など)また、散歩など体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に関しては基本午後から毎日実施。ご利用者は2日に1回は入ってもらっている。入浴されない方は清拭で対応を行うが、入浴拒否があった方は柔軟に対応、また状況によっては個別で入浴する場合もある。(失禁による汚染等)	入浴を拒否される入居者へは本人の望む言葉かけや動きを使って気持ちよく入れる工夫を行っている。週3回の入浴を実施し、入浴の無い日は清拭を行っている。本人こだわりのシャンプーや保湿剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝は本人の希望や状況を見ながら、実施している。また状態を見ながら椅子やソファでくつろいでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット内に薬の台帳を置き、何かあったら職員が確認するようになっている。また何かあったら、かかりつけの薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に数回ボランティア(現在は新型コロナの影響で中断)による音楽レク、好きな音楽を聴いたり歌ったり、また絵の好きな方は写し絵をしたりとご利用者が好きなことに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は散歩に出掛けている。桜、紫陽花見学に出掛けたり、行事として外食も予定している。ご家族が連れ出での外出、外泊は少なくなっている。年末やお盆などの帰省をお家族に話している。(現在は新型コロナの影響により、外出を自粛している。)	1対1での買い物支援や、車でドライブしながら季節の花見を行うなど、入居者の生活空間が閉鎖的にならないようコロナ禍の中でもできる範囲で極力支援していこうと取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーを通じてお金を持つことの大切さを理解していただきたいが、残念ながら十分な支援が図れていない。(現在新型コロナの影響により買い物ツアーを取りやめている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時はご家族に時間などを承を得た上で掛けてもらうよう支援している。(新型コロナウイルスの影響により面会ができないので、電話で話をさせていただく機会を増やしている。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は本人やご家族が持参されたものを配置して、共有空間もご利用者が不快にならないように配置している。また転倒のないよう、足元の環境整備は特に注意している。季節の花を飾ったり、ユニットの廊下に歌を書いた模造紙を飾ったり、ホールにもご利用者の写真を飾り話題づくりを行っている。	入居者手作りの巾着袋や絵画などの作品が展示されている。入居者に懐かしい歌の歌詞や方言の掲示がされており、職員とのコミュニケーションツールにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール席では気の合うご利用者同士で座ってもらい会話を促したりして楽しく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段の生活の中で使用していたものを持ち込んでいただき、自分の持ち物で安心していただけるよう、ご家族の協力を求めている。	家族の写真やアルバム、遺影を飾っている入居者もいる。各居室はそれぞれ壁紙が違い、日当たりが良く気持ち良く過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等全てに手すりを付け、なるべく自身の力で安全に行動できるようにしている。自身で行ける工夫として、利用者の目線に合わせトイレの文字表示をするなどしている。		